

ぶたちゃんの畑

和田 俊彦さん 伶奈さん
宗像市

家族の時間を求め
Uターンで新規就農

中山間地の利を生かし
有機農業にチャレンジ！

前職は民間企業で朝から晩まで働き、全国転勤していた和田さん。子供の誕生がきっかけで、家族と向き合う時間を求めることに。宗像市で、家族とともに農業を行うことが、理想的なライフスタイルと考え、脱サラし、ぶたちゃんの畑として新規就農します。

宗像市の中山間地は、面積が狭く、斜面も多いため、効率的な農業に適しません。それでも、農業での収益を上げるためには、農作物に付加価値を付ける必要があると考え、野菜を有機栽培でスタートする決断をします。

現在は、奥様と3人の子供達で家族経営。家族で過ごす時間が増え、子供の教育に良いため、農業は魅力的な職業。子供も農業が大好きで畑で過ごす時間が大好きとのことです。

農業未経験から就農する際、自治体に研修先を相談したところ、有機農業を学ぶための、受け入れがないとのこと。そこで、栽培技術はYouTubeを参考に独自で取り組むことに。

有機農業が普及するには、身近に学べる農家や学校が存在が、非常に重要とお話されました。

ぶたちゃんの畑

栽培品目:約50品目(野菜)
経営面積:約3ha
販路:グリーンコープ、個人飲食店
定期購入、ふるさと納税

Instagram
<https://www.instagram.com/butachannohatake/>
Facebook
<https://www.facebook.com/buta1018/>



有機栽培の概要

1. 有機栽培の取組

ぶたちゃんの畑では現在少量多品目で栽培。通年栽培する農家として、季節（時期）にあわせ適地適作、同じ作物でも様々な異なる農地で作付けすることで、病気発生等のリスク対策をしています。

また、中山間地の圃場では、自分の農地が他の慣行栽培農地より上部に位置し、畦畔に一定の段差があれば、ドリフト対策としての緩衝地帯を設ける必要がないことも有機農業に適地です。



緑肥の刈取り
(提供:ぶたちゃんの畑)

2. こだわりポイント

農薬は天然由来も含め一切使用しない完全無農薬。そのため雑草対策としては、発生抑制が重要であり、夏季に透明マルチシートを使用して、太陽熱により雑草の種を死滅させ、畝間には黒色マルチシートを被覆して対策。また、畝ごとに防虫ネットをかけて害虫も対策しています。

土づくりでは、植物性のぼかし肥料を用い、またエン麦、セスバニア、クロタラリア、ヘアリーベッチ、ライ麦等の緑肥を使い分け施用しています。

経営面の取組・工夫

就農当初から有機農業に取り組めます。ただ、新規就農時の機械や資材を優先して購入する必要があり、金銭面の負担から、有機JAS認証の取得を先送りしました。

その後、必要な機械や資材を揃え終え、就農5年目である令和6年6月に、有機JAS認証を取得。取得により、引き合いが多くなり、特に地元のグリーンコープでは、ご自身の野菜コーナーが設置。認証取得がここまで販路開拓につながるとは思いもせず、もっと早く取得すればと後悔しているそうです。

当初は、販売戦略として定期購入に焦点を集中。良いものなら買い続けてもらえと思っていたとのこと。ところが、人は直ぐに飽きることに気づきます。消費者にも選ぶ権利があり、サブスクと同じで最初は良いが、飽きてきて、続かない。そのため、経営として不安定。

さらには、個人飲食店の売上は、コロナ禍により1/3に下落。定期便や個人飲食店へ販売が偏ることはリスクが高く、安定した経営には多様な販売先の確保が不可欠と気づくことに。災害・天候にかかわらず多品目の野菜を確保し箱詰めする作業が大変であったとのことでした。

今後の展開

現在、多品目で栽培する中で、試行錯誤を繰り返して、宗像市の気候や土壌に適した作物を検証中。今後は、消費者からの需要も考慮して、品目を選び、圃場も広げ、「ぶたちゃんの畑と言ったらこれだ」というような代表的な農作物を生産したいとのこと。

販路では、リスクが高い定期便や個人飲食店から近場の販売先へシフトを検討したいそうです。

将来は、有機野菜の離乳食、ペットフードへの六次産業化、カフェの運営も行い、子供達にも農業を継いでもらうことが理想とのことでした。



収穫された野菜たち
(提供:ぶたちゃんの畑)

もっと聞いてみました！

Q. 鳥獣被害は？

A. 被害としては、イノシシが9割で、アナグマ、カラス等が1割です。およそ売上の1割程度が被害額となります。

電気柵、箱罾を中心に対策していますが、最近はイノシシと畑でバッタリと遭遇し、おもちゃの銃を持って追いかけてきました。このイノシシが農地を荒らしているのか、別のイノシシではないのかと戸惑うこともあります。

イノシシの話でネタが尽きないくらい、困っています。



Q. 作業時間は？

A. 通常で6～8時間、冬場は2～3時間となります。以前は除草に時間がかかっていましたが、そもそも草を生やさないように工夫したりと、何事にも、業務効率を意識して取り組んでいます。高低差がある圃場は畔の草刈りが大変です。

グリーンコープの専用コーナー
(提供:ぶたちゃんの畑)

Q. 「ぶたちゃんの畑」の由来は？

A. 代表が豚が好きだから、名づけました。当初は、〇〇農園や〇〇ファームという名前を検討していましたが、しっくりきませんでした。(豚を漢字にしなかったのは)平仮名のほうが馴染みやすい感じがするでしょう。ちなみに、豚は飼っていません。

Q. 脱サラし農業を始めると聞いた時奥様どう思った？

A. 当時夫は、ほぼ休みがないサラリーマンであり一緒に過ごす時間があまり取れませんでした。農業を始めることで、自分自身も携わり、一緒に時間を過ごしたいと思い、大賛成でした。

私自身は東北出身ですが、寒いのが大嫌いでしたので、九州への移住も前向きに考えることができました。